

茨城教育研究所通信

第28号 2018年3月20日
発行 茨城教育研究所
〒310-0853 水戸市平須町 1-93
(茨城県高等学校教職員組合内)
TEL 029-305-3075 Fax 029-305-3137

「教え子を再び戦場に送らない」ために

戦争と平和の[明治150年]を読み解く

今年2018年は明治150年にあたるということで、祝賀ムードを高めていこうと、安倍政権による官民挙げての一大キャンペーンが推進されようとしています。しかし前半の70有余年は、絶対主義的天皇制・富国強兵の侵略戦争の結果、内外に大きな災禍をもたらした悲惨な時代でした。後半の70有余年は、憲法9条によって一人として戦死者を出すことのない平和な時代でした。安部首相は、国会での絶対安定多数を背景に、北朝鮮危機を最大限に利用して、憲法9条の改憲を年内に発議することを表明し、ふたたび戦争の時代に逆行させようとしています。

研究所通信は、このような情勢の中で、今回具体的に明治新政府にまでさかのぼってのアジア太平洋戦争の推移と、私たちがそこから汲み取るべき教訓、祖父の兵役の歴史から見える軍隊と銃後の記録を読むことを通して、改めて戦争の諸相について思いを巡らし、今後の平和運動の糧にしていきたいと作成しました。



政府作成のポスター



『あたらしい憲法のはなし』(複製版)(文部省著作権)

I 「日本近代化と15年戦争・アジア太平洋戦争への道－明治150年の実態－」

茨城県歴教協副会長 高橋 裕文 …… p.2

II 「ラバウルから生還した祖父－軍都宇都宮と銃後笠間－」

元茨城県立高校教諭 村田 有 …… p.24